

おひさま ニュース

2019

新年号

1月15日発行



ホームページ

〒294-0014 千葉県館山市山本1155番地 TEL:0470-25-5111 <http://www.awairyo.jp/>

発行責任者：福内正義 編集責任者：根本達也



Dream and Do

社会福祉法人太陽会
理事長 亀田信介



明けましておめでとうございます。今年は平成最後の年であり、新しい元号に変わる年です。

太陽会では、昨年12月に『訪問看護ステーションおひさま』をスタートさせ、また南房総市と安房地域医療センターとで地域医療連携推進法人『房総メディカルアライアンス』を設立しました。看護師養成も順調に進んでおり、今年も多く若い看護師の入職が予定されています。このように太陽会では地域包括ケアシステム構築に向けた基盤づくりを一步一步確実に進めて来ました。

一方医療界は、医師の働き方改革や今年10月に施行される消費税10%への引き上げによる増税への対応など、重要かつ頭の痛い問題が山積しています。また高齢化により医療費が増加する中、これまで医療者の自己犠牲や倫理観によって維持されてきた医療提供体制が崩壊の危機に瀕しています。より合理的で効率的な制度に転換せざるを得ない状況は明らかであり、今後様々な規制改革や制度改正が行われるでしょう。

例えば、急性期医療の診療報酬は成果評価が基本となり、長期入院の是正や医療資源の集約化が進むと思います。一方、慢性期医療は介護と一体化し、介護医療院のような介護施設への転換が加速し、医療資源の節約と増加する介護ニーズへの対応を目指すでしょう。

医師の働き方改革では、これまで医師に集中していた裁量権が見直され、多くの専門職に仕事を分散あるいは任せることで医師の労働負荷軽減と医療コストの削減、さらには効率性の向上を図ろうとしています。

労働人口の急激な減少も医療や介護にとっては大きな問題です。そもそも看護や介護は情報通信技術やロボット技術が発達しても劇的な効率化が期待できません。しかも、主な収入が公定価格によって決められているために、人材不足だからといって、建設業のように簡単に賃金を上げることができません。つまり人材不足問題は今後ますますひどくなり、人材の取り合いがはじまることでしょう。そのため政府は多くの業種に対し外国人労働者の受け入れ拡大を図ろうと入管法の改正に踏み切りました。特に介護分野は急激に拡大するニーズに比べ、圧倒的な人材不足が予想されるため、外国人労働者に大きな期待が寄せられています。しかし、現実はその甘くありません。言語や文化・慣習、宗教の違い、こうした問題に対する相互理解の文化・風土の醸成など、私たちが克服しなければならない課題もたくさん抱えています。そのため太陽会では、学校法人鉄蕉館と力を合わせ、ひと足早く外国人労働者の受け入れ準備を進めてきました。もはや、これまでの延長線上に答えなどありません。より国際的で多様性に富んだ視点に立ち、未来を冷静に分析し、独自のビジョンを作っていく必要があると思います。



【房総メディカルアライアンス】新しい取り組みが南房総市と始まりました。(石井 裕南房総市市長と)

診療科のご紹介	総合診療科	消化器科	循環器科	腎臓内科	糖尿病内分泌内科	神経内科
	小児科	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	膠原病内科	呼吸器科	皮膚科	腫瘍内科
	外科	肛門科	整形外科	スポーツ整形	形成外科	乳腺科
	救急科	ペインクリニック	透析科	泌尿器科	甲状腺外来	リハビリテーション科

循環器科



循環器科は2018年4月より、常勤医4名と研修医、外来診察を担当する非常勤医4名の新体制となりました。当科で行える検査は心電図やレントゲン、採血など基本的な検査から、冠動脈CT、心臓MRI、負荷心筋シンチグラフィーなど高度な検査機器も取り揃えており、ほぼ全ての循環器疾患に対応可能です。治療に関しては、各循環器疾患に対する薬物治療、心臓や動静脈に対するカテーテルを用いた治療、不整脈に対するアブレーション（心筋焼灼）治療、ペースメーカー手術等が対象となります。

当院のカテーテル室は2方向から撮影が可能なバイプレーンシステムを採用した高機能の透視装置や、不整脈の3次元解析・治療補助装置（CARTO3）を導入しています。新体制となった

2018年4月から12月までのカテーテル室での検査治療実績は、カテーテル検査280件、冠動脈や末梢血管の血管形成術191件、不整脈に対するアブレーション治療27件、ペースメーカー手術38件です。また重症な患者さまや術後管理に対応するため集中治療室を完備し、高い水準の治療体制を整えています。心臓血管外科手術が必要な場合は、亀田総合病院などの基幹病院への紹介も行っています。

循環器疾患は時として早期の診断や治療が必要になることも多く、月～金曜日の午前中は毎日初診外来を設け、予約のない患者さまでも受診できるよう可能な限り対応いたしますのでお気軽にご相談ください。生命を脅かす心臓病・動脈硬化の早期診断、治療とその予防につとめ、患者さまが安心して生活できるよう精一杯努力してまいります。

いわつかりょうた

岩塚良太 部長

- 日本心血管インターベンション治療学会専門医
- 日本循環器学会専門医
- 日本脈管学会脈管専門医
- 医学博士

出身地：東京

趣味：船旅・アイスホッケー

房総の好きなところ：

食べ物がおいしい



シリーズ 睡眠時無呼吸症候群

その2 「いびき」と睡眠時無呼吸症候群

医療技術部 佐藤潤一

「いびき」は昔から私たちの身近にあり、かつては「ぐっすり眠っている証拠」のように言われていました。しかしながら最近では体に何かの不調が発生しているサインであることが知られるようになってきました。いびきは睡眠時無呼吸症候群の代表的な症状であり前回のコラムでも症状を紹介いたしました。

今回はいびきを抑え睡眠時無呼吸症候群にならないための予防策を紹介いたします。

①適正体重の維持…体重超過は喉や首まわりの脂

肪沈着を来し正常呼吸を維持できなくなる場合があります。②お酒に注意…アルコールによって首や喉まわりを支える筋肉がゆるみ上気道が狭くなることがあります。③鼻症状の改善…鼻炎など鼻症状がある場合は、口呼吸になり鼻呼吸の時よりも咽頭周囲が狭くなることがあります。④寝姿勢の工夫…仰向けで寝るよりも、横向きで寝ると上気道の閉塞を軽減できる場合があります。



えんげしょうがい そのムセ、大丈夫ですか？ 嚥下障害について

リハビリテーション室室長 根本達也
言語聴覚士



【当院の摂食・嚥下チーム】言語聴覚士と歯科衛生士

リハビリテーション室ではさまざまな障害に対して、患者さまのお手伝いをしています。今回は摂食・嚥下障害について紹介します。

摂食・嚥下障害とは、口から食べる機能の障害です。食べ物を認識し咀嚼して、喉・食道を通過する一連の動きのいずれかが障害された状態を指します(摂食障害とは区別されています)。具体的には、食事中や食後にムセたり、痰がからんだような声になるような症状です。原因はさまざまですが、代表的なものは脳卒中や口腔・頭頸部がんの術後です。最近では加齢による喉の筋力や感覚の低下による嚥下障害が多くなり、たくさんの患者さまが対象となっています。この障害による問題は食べる楽しみの消失や低

栄養、そして誤嚥性肺炎の原因の一つとされていることです。厚生労働省の統計によれば、肺炎は日本における死亡原因の3位です。そして肺炎の95%以上が65歳以上で、また肺炎の原因のうち3割～5割が誤嚥性肺炎と言われています。

摂食・嚥下障害に対しては嚥下リハビリテーションを実施します。医師や歯科医師の指示で行われます。実際に食べているところや唇や舌をはじめとした嚥下器官の動きを観察したり、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などの精密な検査を行います。その後は唇や舌、喉の嚥下器官の機能を回復する練習を行います。その他にも適切な食べ方(姿勢やひと口量、介助方法)、安全な食事の形態(お粥やミキサー食の導入)の調整など、個人個人にあわせたリハビリを行っています。ぜひ安全でおいしい食事を楽しみましょう。



嚥下造影検査

食物に模したバリウムを飲んで検査します

おひさまキッチン

用具の工夫で「できる」を増やそう!

リハビリテーション室
作業療法士 大瀬律子

今回は包丁やスプーンなど、キッチンで見かける「用具の工夫」の一部をご紹介します。

手の不自由な方や握力の弱い方は、食事や調理の際、手に力が入りにくいためお困りになることがあります。そのような時は、ご自宅にある用具に滑り止めシートやフォームラバーを使って柄の部分太くすることで関節や筋肉への負担が軽くなり、動作や作業がしやすくなります。また、ぬれ布巾や滑り止めマットで食器などを固定すると更に安定します。



100円均一ショップ
に売っています



介護ショップに
売っています

ほかにも右図の箸のように
ちょっとした工夫や便利な
市販品などもございます。



細かい指の動きが難しい方用の箸
「楽々箸クリップタイプ」「箸ぞうくん」
は、介護ショップに売っています。菜箸
タイプもあります。

トピックス

2018年度
災害訓練実施

当院は地域災害拠点

病院に指定されています。11月17日(土)大規模災害に備え、多数傷病者受け入れ体制の確認や、職員の意識付けを図る目的で災害訓練を実施しました。今回は、前回まで仮で設けていた動線や診療区域も、実際と同じ設定で訓練を行いました。当院職員や安房医療福祉専門学校生、安房消防や周辺自治体(館山市、南房総市、鋸南町)、外部評価者として日本DMAT(災害派遣医療チーム)隊員を招くなど約200名が参加しました。

13時30分千葉県南部で大規模地震が発生、患者さまが多数当院へ搬送されるかもしれ



ない、院内の建物も一部被害をうけているという想定で訓練放送でスタートしました。災害対策本部や診療区域



の設置など、受け入れ準備が進められ、安房医療福祉専門学校生扮する傷病者が来院。トリアージ(災害時の

治療優先順の選別)や診療が開始されました。災害対策本部では、広域災害医療情報システム(EMIS)の入力訓練や各自治体との衛星電話回線による情報通信訓練も行われ、安房消防は、駐車場での救護所設置、トリアージや救急車での搬送訓練を行いました。2時間後訓練は終了し、部門毎に意見が交わされました。全体ミーティングでは日本DMAT丸山裕美隊員(ふたば医療センター附属病院)から講評が述べられ、不動寺純明亀田総合病院救命救急センター長からは、初回からの振り返りや前回との比較、今後の課題などが出されました。訓練によりわかってきた問題点や課題を見直し、対策に取り組んでいきます。

ポストが設置されました

本館正面玄関前に公設の郵便ポストが設置されました。収集は毎日行っていますので、どうぞご利用ください。

訪問看護ステーション
おひさま開設

社会福祉法人太陽会は、12月1日館山市内に「訪問看護ステーションおひさま」を開設しました。亀田ファミリークリニック館山の訪問看護ステーションから事業を継承する形で、地域における訪問看護サービスの拡充を図ります。

ご利用の対象者は訪問看護を必要とするすべ



ての方で、赤ちゃんから高齢者まで、年齢、病状、障がいの程度は問わず、かかりつけ医師が訪問看護の必要を認めた方となります。詳しくは、安房地域医療センターホームページからご覧いただくか、訪問看護ステーションおひさまにお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ

訪問看護ステーション おひさま
〒294-0051 千葉県館山市正木 1314-1
電話 0470-29-7868 FAX 0470-29-7865

編集
後記

おひさまニュース
バックナンバー

平成も残りわずかとなりました。新年号なのに年末のご挨拶のような書き出しとなってしまいましたが、平成での発行は今号を含めあと2回となりました。振り返ると、安房医療福祉専門学校の開校や、卒業を迎え看護師の仲間入りをした第1期生、研修医や新入職員の入職など、たくさんの「仲

間たち」の記事を掲載してきました。今号では新年号にふさわしく、新たなサービス部門を担う「訪問看護ステーションおひさま」の開設をお伝えすることができました。平成から新しくかわる未来でも、みなさまを明るく照らす温かなおひさまのような出来事や仲間たちの記事でいっぱいにしていきます。

